

アカイセエビの持続的利用に向けた生態解明に関する研究

【背景と目的】

小笠原島漁業協同組合ではアカイセエビの漁獲量減少等をうけ、5年間の禁漁等の資源管理措置を講じてきたが、資源回復の兆候は見られなかった。他方、流通経路維持のためには漁業の再開が必要であり、資源管理の効果が定かではない状況下で持続的な漁業を行うことが求められている。

そこで、従来の操業とは異なる時期や場所における試験操業を行い、現在のアカイセエビの分布状況を改めて把握する。また、環境要因等を考慮した資源動向を評価・提言する。加えて、一般的に減耗の程度が大きい初期生態を明らかにするため、浮遊幼生の回遊に係る数値モデルを構築し、漁獲量や海洋環境との関係を検証することで漁業の将来予測に活用する。併せて着底量のモニタリング手法を開発することで、回遊生態モデルの補強を行うとともに、着底後の生態解明の一助とする。

【研究概要】

- (1) 操業条件ごとの試験操業
- (2) 漁業形態及び環境要因の効果把握・資源動向の評価及び提言
- (3) 数値モデルの構築及び検証
- (4) 数値モデル計算結果と漁獲量・海洋環境との関係性検証
- (5) プエルルス幼生及び稚エビの採集技術開発